

自治体の取り組み

熊本県の道路に関する

ユニバーサルデザイン指針について

熊本県土木部道路整備課

1. 指針策定の背景

戦後の復興時期や高度成長期の道路整備は、産業関連物資等の輸送を担う道路網整備に主力を置いたものでした。しかし、道路整備をはるかに凌ぐ自動車社会の進展は、都市部での交通渋滞や排気ガスによる大気汚染、騒音・振動等による沿道環境の悪化を引き起こしました。また、整備延長など「量の確保」といった経済効率主義に重点を置いた道路政策は、その一方で、まちづくりやコミュニティの形成、あるいは地域の歴史・文化、自然環境等に対して配慮を欠いた面も否めず、“車中心”の道路整備というイメージを国民に与えました。

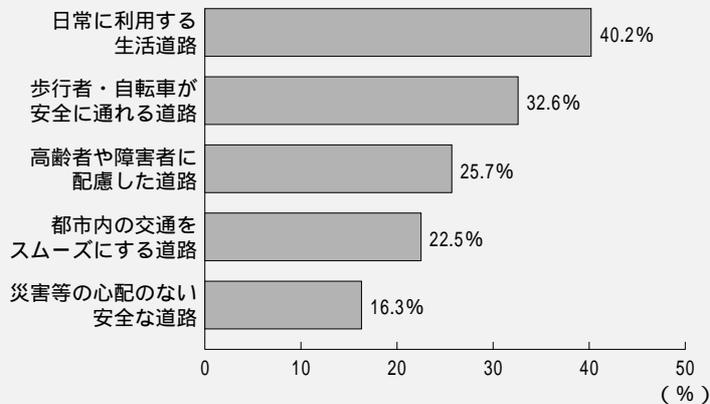


図 1 今後力を入れて整備して欲しい道路 (2004年県民アンケート調査)

県民対象に行ったアンケート調査によれば、「日常に利用する生活道路」や「歩行者・自転車が安全に通れる道路」など“人中心”の道路整備を求める声が強いことがわかりました。また、環境等に配慮した道路整備で提供される「癒し空間の創造」への期待も高まっています。さらに、高齢化社会や諸外国からの観光客への対応など複雑化・多様化するニーズに応えるには、「すべての人が生活しやすい社会のデザイン」という思想で提唱されたユニバーサルデザイン(以下、「UD」)社会の実現が必要不可欠になります。

2. 指針の性格と目的

本県の道路の取り組みとしては、平成14年2月に策定された『くまもとユニバーサルデザイン振興指針』を踏まえて、同年9月にUDを基調とする『熊本県の道路整備に関する中長期計画』を策定しています。

この計画に掲げる諸施策をUDに配慮して強力に推進し、併せて国をはじめとして県内各市町村の道路行政担当者や、県民、企業、NPO、交通管理者および公共交通事業者等への『UDによる道づくり』を広く普及していくために、昨年の8月に

による道づくりを推進していただくよう各道路管理者等に働きかけることとしています。

道づくりの進め方については、UDを推進する基本姿勢（プロセス重視・柔軟で選択性のある・システムのなアプローチ）で、UDの四つの視点（簡単・快適・安全・柔軟）を具体化するために、全体を(1)課題・ニーズの把握、(2)成果目標の設定、(3)整備計画・設計、(4)施工、(5)維持管理および評価の5段階に分け、各段階でUDに向けての配慮事項を取り入れることとしています。

(1) 課題・ニーズの把握

県民との対話（PI）、関係機関との情報交換や既存の制度活用（県政モニター）、各種の調査（県民アンケート）を活用して把握に努めます。

(2) 成果目標

車道空間形成・歩行空間形成・横断施設整備・交通結節点改善・情報・サービスづくり・付属施設の設置など、ニーズや課題に対応する具体的な目標を設定します。

(3) 整備計画や設計

UDによる構造や関連する基準を満足し、県民の意見等を十分反映することを心がけます。

(4) 施 工

計画・設計と現地状況との不具合がないか、道路利用者、沿線住民への工事請負者の対応は適切かなど、円滑な工事の実施、課題の解決のための道路管理者と工事請負者との緊密な連携を図ります。

(5) 維持管理および評価

整備された道路が県民ニーズに沿っているかなどを評価点検し、得られたUDのノウハウや課題等を評価し、各段階へフィードバックさせることで、他の道づくりにも反映させます。また、県民と協働で維持管理やマナーの向上に努めていきます。

4. UDによる道づくり事例

(1) 県庁舎外構整備

県庁舎周辺道路について、基本設計の段階から利用者との意見交換を行い、安全性・利便性に配慮した歩道等の整備を行いました。

【UDを実現するための行動】

- ・県庁内に外構道路のUD整備に向けた検討委員会を設置し、整備計画・設計段階でUDの内容や整備方針を検討しました。
- ・自治体職員や高齢者、視覚障害者、下肢障害者、NPOなどの参加により現地踏査を実施し、歩道の段差や舗装、誘導ブロックなどについて意見を聴取し設計に反映しました。



写真 1

(2) 遮熱性舗装の実証実験

夏場の舗装路面温度の低下による歩行者の快適性を確保し、あわせてヒートアイランド現象を抑制するため、遮熱性塗料を塗布し、その効果を検証する実験を行いました。

これにより、最大15程度の路面温度の低下があることがわかり、利用者も照り返しがなく歩きやすいとの評価を得ました。

【UDを実現するための行動】

- ・現地実証実験に際し、道路管理者からの実験場提供や熊本大学の研究など、産学官の連携により人・自然にやさしい歩道材料の実証実験が実

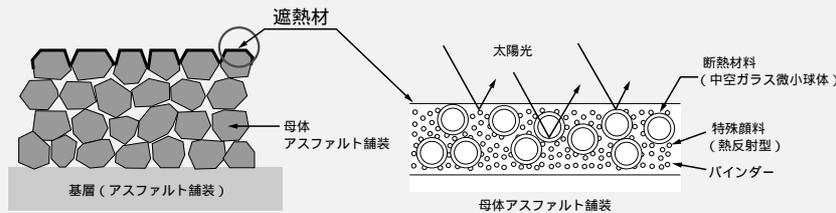


図 5 遮熱性舗装のイメージ図



写真 2



写真 3

現しました。

(3) 阿蘇地域の案内標識整備

観光客が年々増加している阿蘇地域においては、国道57号の渋滞が問題となっています。観光地へのスムーズな通行を目指し、既存道路を利用した迂回路への誘導やUDの観点からわかりやすく統一された、案内標識の検討を行いました。

絵文字(ピクトグラム)や多言語表記を検討し、観光客や外国人などにも配慮しています。

【UDを実現するための行動】

- ・庁内関係課によりプロジェクトチームを設置し検討しました。
- ・観光客が多いゴールデンウィークに渋滞状況の把握と、阿蘇山頂等で利用したルートなどのアンケート調査を実施しました。
- ・県政モニター会議や県外NPO、観光ボランティアとの意見交換会を実施し、利用者意見を聴取しました。

5. まとめ

指針策定後約1年が経過し、「道路に関するユニバーサルデザイン指針」を普及啓発するための研修会、フォーラムを開催したことで、少しずつ道路UDの理解を得ることができつつありますが、今後とも「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現に向けて、研修会等を通じて「意識づくり(心のUD)」を醸成していく必要があると考えています。

また一方、この指針による道路整備を推進していくための、体制づくりも検討していく必要があります。まずは道路UDについての具体事例を検証し他の事例に反映するためのマネジメントシステムの構築を進めているところです。

熊本県の道路に関するユニバーサルデザイン指針のホームページ

http://www.pref.kumamoto.jp/project/douro_ud/index.html